

<報 告>

日本マクロエンジニアリング学会主催国際会議 2003/5/8-10 会場:三重県四日市市 ザ プラ
トンホテル

The 4th Asia Pacific Conference on
Sustainable Energy and Environmental Technologies

Under the Auspices of: The Science Council of Japan, The Japan Institute of Energy,
The Society of Chemical Engineers, Japan and The Chunichi Shimbun

Organized by: Yokkaichi University, Japan Macro-Engineers Society, Institute of
Environmental Systems of Kyushu University and Waseda University

Sponsored by: Yokkaichi University, Kyushu University, Tokyo Electric Power
Company Inc., Chubu Electric Power Company
Inc., Marubeni Chemix Corp., Metocean Environment Inc., ICETT and Yokkaichi City

会議の概要

2003年5月8日(木)～10日(土)の三日間に亘り、18ヶ国からの参加を得てアジア・太平洋地域の持続可能な成長を議論する国際会議を、日本マクロエンジニアリング学会・早稲田大学・九州大学との共催で、四日市プラトンホテルに於いて開催した。130件以上の論文が集まったので、多数の参加者が予定されていたが、SARSのため100余名の参加であった。

初日の開会式では、井上四日市市長から、公害を克服した四日市市での開催に意義を感じて頂ければ幸いであるとの挨拶があり、続いて四日市大学の宗村学長から歓迎の言葉が述べられた。引き続き、豪州クィーンズランド大学副学長 グリーンフィールド教授から、地球温暖化の防止がますます重要な課題になっており、この会議の役割も大きいとの基調講演がなされた。また、元ICETTの島洋久氏から、四日市市が公害を克服した道すじ、中部電力 佐藤正次郎環境部長から日本の電力会社の環境対策とりわけ二酸化炭素排出削減の成果が報告された。

その後、一般講演に入り、自然エネルギー、廃棄物、バイオマス、エネルギー効率向上、排水処理、地域公害、環境保全などのセッションに分かれて、4つの会場で並行して研究発表と活発な討論がなされた。

初日の午後、後半にはポスターセッションで15件の報告があり、特に興味のある参加者達が発表者とじっくり話し込む姿が印象的であった。

2日目の午前是一般講演で、午後と3日目の午前は当会議のハイライトである6つのテーマについてのワークショップが、脚光を浴びた。バイオマス、土地の劣化と改良、クリーンエネルギーと開発に関する技術集積、クリーン開発メカニズム、クリーナープロダクション、環境教育の分野での一級の専門家が交わす討論の中に、今後の展望が垣間見られた。

3日目の午後は市民向けのフォーラムで、環境教育がテーマであった。グリーンフィールド教授が、豪州クィーンズランド市で大学・企業・市民・州政府が一体となってボランティアに遂行してきたブリスベーン州沿岸の環境保全事業を、スライドを交えて紹介された。その後、日本の発表者から環境教育の話題が報告され、意見交換がなされた。学生や市民200名以上が参加して、熱気のある会場であった。

本会議の内容は、中日新聞に連日に亘り紹介され、四日市市で環境を語るにふさわしい国際会議であることが、社会的にも認知されたものと心強いものがあった。

最後に、関係各位の支援とサポートにより成功したことに感謝し、第5回がニュージーランド、第6回がタイで開催されることが決まったことを以って結論としたい。

(文責：APCSEET実行委員長 新田義孝)